

防 除 情 報

平成 17 年度病害虫発生予察 防除情報第 5 号

平成 17 年 6 月 3 日
長崎県病害虫防除所長

ヒメトビウンカの縞葉枯病ウイルスの保毒状況及び生息密度について

ヒメトビウンカ（第 1 世代）の縞葉枯病ウイルスの保毒虫率が高い状況にあります。水稲で縞葉枯病の発生が多くなることが予想されますので下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 縞葉枯病ウイルスの保毒状況と生息密度

5 月 9 ~ 24 日に県下 16 地点の水田、休耕田、小麦圃場においてすくい取り法によりヒメトビウンカの採集を行い、縞葉枯病ウイルスの保毒状況を検定した。その結果、保毒虫率は 3.9%（平成 1.0%）と平成より高かった（表 1、2）。生息密度は 20 回すくい取り当たり 7.4 頭（平成 11.2 頭）で平成より少なかった（表 1、2）。

2. 防除対策

- (1) 今後、移植を行う圃場ではウンカ類に効果のある箱施薬剤を施用する。
- (2) 圃場でのヒメトビウンカの発生状況に注意し、発生が多い場合には防除を行う。
- (3) 発病株を認めた場合は抜き取る。
- (4) 窒素過多を避け適正な肥培管理に努める。

表 1 各地点のウイルス保毒虫率と生息密度

調査地点	検定虫数(頭)	保毒虫率(%)	生息密度 ^{注1)}
長崎県	15	6.7	1.0
西臼杵郡	150	2.7	20.8
諫早市	17	11.8	1.6
早良区	150	4.0	12.3
早良区	21	0	2.7
早良区	33	3.0	5.8
早良区	119	4.2	6.5
早良区	148	6.8	11.5
早良区	150	2.0	22.3
早良区	150	4.0	22.2
早良区	150	3.3	3.4
早良区	56	5.4	20.6
早良区	6	0	0.1
早良区	7	0	0.2
早良区	2	0	0.1
早良区	6	0	1.7
合計(平均)	1180	3.9	7.4

注 1) 生息密度は 20 回すくい取り当たりの頭数
保毒虫率検定はラテックス凝集反応法による

表 2 ウイルス保毒虫率と生息密度の推移

年	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	平成	H17
保毒虫率	1.5	0.6	1.5	1.4	0.6	0.8	0.6	0.8	0.9	2.0	1.0	3.9
生息密度 ^{注1)}	13.3	15.6	17.3	6.1	18.6	10.1	6.9	5.0	9.9	10.5	11.2	7.4

注 1) 生息密度は 20 回すくい取り当たりの頭数
平成値は H7 ~ 16 年の最大・小値を除いた平均値